

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

さくらも満開の11号

福玉便り

2013年4月1日(金)発行

ふく たま だ よ り

発行:『福玉便り』編集委員会 (一社)埼玉県労働者福祉協議会・NPO法人ハンズオン埼玉・震災支援ネットワーク埼玉(SSN)
編集デザイン:NPO法人ハンズオン埼玉 メール:fukutama@431279.com
連絡先:(一社)埼玉県労働者福祉協議会:〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4-21 TEL048-833-8731
印刷協力:富士ゼロックス埼玉 端数倶楽部



幸手 **権現堂の桜の下で交流会**
4月7日(日)11:00

来る4月7日に幸手市の『権現堂で桜と菜の花を観る会』がおこなわれます。主催は、富岡町から杉戸に避難されている皆さんとその支援をされている方々です。ご参加ください!(以下、よびかけのチラシより抜粋。)

権現堂堤は、江戸時代から、日光街道と日光御成街道の分岐点にあたる、桜の名所です。1キロの堤に、千本のソメイヨシノが咲きます。桜堤の周りには、菜の花畑が広がっていて、桜の時期には、菜の花もきれいに咲きます。満開の桜の花のピンク色と、菜の花の黄色のコントラスト。それは、それは、見事な風景です。富岡町の桜も見事ですが、埼玉の桜も見事なものです。大切な富岡町の桜が震災の影響でどうなるかわかりませんが、いつか富岡町の桜の下で、花見が出来る日が来た時こそ、本当の復興だと思います。春の満開の桜の下での楽しいひと時!どうぞ沢山の皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお願ひします。

当日連絡先:佐藤さん080-2820-9291
豊島さん080-1243-6737

車の場合:幸手市北公民館の隣に桜堤と駐車場あり。
電車の場合:東武線幸手駅から臨時バスあり(土日のみ)

4月から『福玉・謡曲の会』が始まります

能楽師・武田祥照さんのご協力を得て、初歩から能について学び、謡のお稽古をする会を開始します。

「能を好きになってもらいたいです」と武田さん。楽しくも、心落ち着く時間になればと思います。ぜひお気軽にご参加ください。お待ちしております。

第1回目の案内(今後月1回の予定)

日時:4月13日(土)10:30~11:30

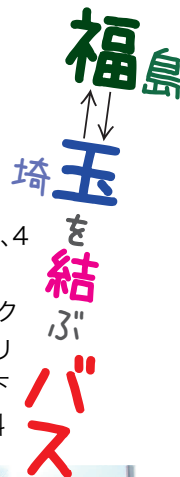
場所:With Youさいたまセミナー室2

交通のご案内:さいたま新都心駅が北与野駅下車徒歩6分ホテルプリランテ武蔵野4階

お問合せ:薄井まで(080-5532-7380)



ゴールデンウィークも福玉結バスで、家族の交流を・・・!



(一社)埼玉労福協は、2月・3月の試行的運行を踏まえて、4月以降も適宜運行することにいたしました。

その第1弾として、連休に福玉バス(ゴールデンウィーク家族交流号)を運行します。ご家族や知人との交流、スパリゾートでのリフレッシュ、埼玉県での買い物等にご利用下さい。もちろん今回も福島県から避難されている方は無料でご利用いただけます。

- ①4月27日(土)と4月28日(日)いわき便
いわき駅 ⇄ さいたま新都心 (往復)
- ②5月3日(金)と5月5日(日) 中通り便
福島駅 ⇄ さいたま新都心 (往復)



*試行便での「土日連続運行では、滞在時間が確保できない」というご指摘も踏まえ、「中通り便」は「2泊3日滞在型」にしました。

●詳しい運行予定(時刻表)および予約については、(一社)埼玉労福協・電話048-833-8731まで

*4月1日(月)以降、(一社)埼玉労福協のホームページにも掲載します。



県外避難者向け情報提供サイト

『ふくしま結ネット』

<http://yui.net.beans-fukushima.or.jp/>

運営しているつしやる東日本大震災中央子ども支援センター福島窓口さんからメッセージをいただきました。

福島県から県内外に避難されている方と「ふくしま」を情報で「結ぶ」サイト、『ふくしま結ネット』を3月19日より開始いたしました。健康診断や予防接種などの健康・福祉情報、補助・支援情報、交流会や相談会といったイベント情報を発信いたします。福島県発の強みを生かし、県内だから得られる情報、例えば「ふくしまのお母さん達は、どんな風に子育てしているんだろう?」「新聞やテレビでは報道されない情報が知りたいな」など、福島の子育て環境やお母さんの声もお届けする予定です。

必要な情報を「しっかり」区別してわかりやすく、情報を必要とされている方に届けるためにこれからも『ふくしま結ネット』は変化し続けていきます。皆さんの生活の身近なツールになるべくわかりやすい情報配信に努めていきますので、ぜひご活用ください。

3・11東日本大震災追悼式典

上尾



上尾シラコバト団地の一区画にある公園で、3月11日、被災者の会「ひまわり主催の追悼式典が行われました。司会はひまわり副会長の常磐さんです。

シラコバト団地自治会長宮下さん、埼玉県労働者福祉協議会事務局長永田信雄さんの挨拶に続き、「被災者の言葉」では、大船渡市から避難されている小島さんが、良寛の「無常の現実」という言葉に触れ、「前向きに受け止めてこそ、人の輪をひろげ、心を繋いで未来に希望を持てる」とお話されました。

続いて石巻市からの高橋さん。「まず地図を買いました。公民館を利用することにして、とにかく何も考えず、封印して、動くことにしました」と、当時をふり返り、お話しされました。

そして浪江町から避難されている篠原さんは、大切な家族の一員だったゴローのことを語られました。賠償上ではペットが家財扱いされる、その悔しさを訴え、ゴローが亡くなるまでの軌跡と「カウントされなかった命」を祈りたい、とお話されました。

双葉町から避難されているらっしゃる熊川多恵子さんの詩が朗読されたあと14時46分、サイレンの音と共に、黙祷しました。黙祷の後には、団地の和太鼓集団「神鳥子(ひととっこ)」による鎮魂の演奏がありました。

主催である「ひまわり」の橋さんからは、参加された方への感謝の言葉と共に、「明日もこの地で生きていきます」という言葉があり、その後、みんなで河津桜の植樹を行いました。河津桜は早咲きの



品種。3月中旬に咲くというところで選んだそうです。和太鼓による成長祈願の曲が力強く鳴り響きました。この日は、福玉編集部も列席させていただきました。「FOR(ののために)ではなくWIT(H(と一緒))」という言葉をいただき、改めてこれからも、隣で、共に考えていきたいと願う一日となりました。(編集部・伊藤)

品種。3月中旬に咲くというところで選んだそうです。

和太鼓による成長祈願の曲が力強く鳴り響きました。この日は、福玉編集部も列席させていただきました。

「FOR(ののために)ではなくWIT(H(と一緒))」という言葉をいただき、改めてこれからも、隣で、共に考えていきたいと願う一日となりました。(編集部・伊藤)

「この向こうに自分の家があったのよね」

さいたま市マシティマラソンくみなのフェスティバル

さいたま市

去る3月23日、24日にひらかれた、さいたまマシティマラソンくみなのフェスティバルは多くの出店がありました。復興支援写真展示コーナーでは多くの方が熱心に写真に見入っていました。

「この向こうに自分の家があったのよね」と教えてくださる方、「昔住んでいたんですよ」とか「会社で毎年浪江の請戸漁港から鮭を買って来てね、おいしかったんだよ」と話してくれる方々。そっと涙を拭かれる方、一枚一枚子どもに説明

『うどんをつくろう会』

これからもつながっていくために

鴻巣



去る3月17日、鴻巣の避難者の会〈想いのメンバー有志による活動「鴻巣ママランチ」の主催で、「うどんをつくろう会」が開かれました。この日は、メンバーでもあった、Sさんのお別れの会でもありました。会を主催した一人、児玉秀子さんから一言いただきました。(編集部)



コープみらいのみなさん

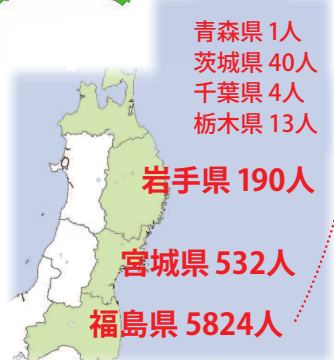
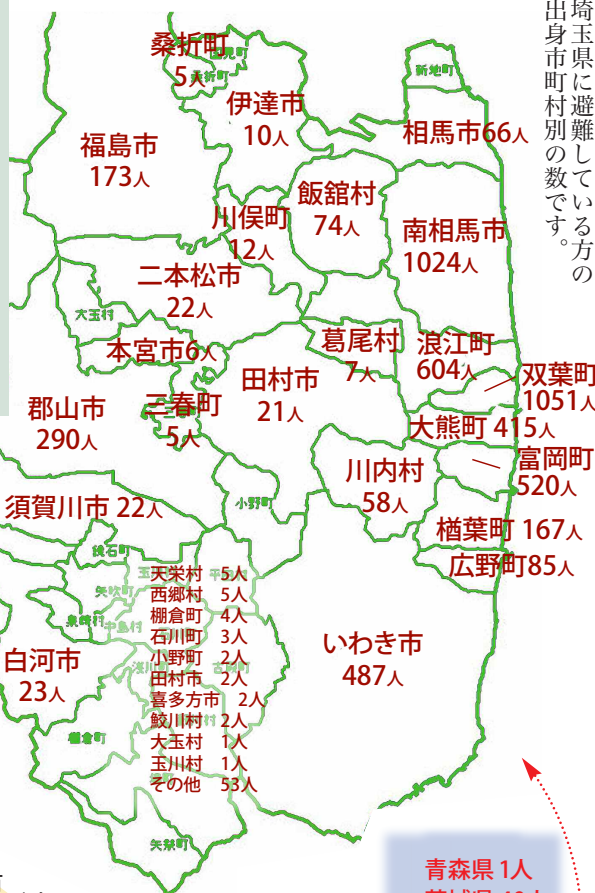
する親御さん。手渡した『福玉便り・号外』を読んで、「このくらいしかないけれど」とすくんに募金してくださった方も。さまざまな声や姿に触れた2日間でした。周囲の賑やかさが遠くに感じる、静かに思いを馳せる場となりました。提供・運営してくださったコープみらいの皆さんに感謝です。(編集部・薄井)

〈想い〉の事業を通じて、我が家と同じ家庭状況で福島から避難しているSさんに出会うことができ、メールやランチを重ねてきました。振り返れば、辛い時こそ、話をすることで癒され、エネルギーを充電させてもらい、乗り越えてきた気がします。4月からSさんが郡山市に移ることになり、〈想い〉、県人会、日清製粉の皆さんの協力を得て、お別れ会を兼ねて「うどんをつくろう会」を開催しました。親子共々楽しい1日になりました。ご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。



埼玉県への 避難者数の現在

埼玉県に避難している方の出身市町村別の数です。



震災から2年を迎えるにあたって、『福玉便り』編集委員会では、2013年2月に埼玉県内の各自治体に避難者数の調査を実施いたしました（調査方法は下記をご参照ください）。

復興庁が発表していた埼玉県内の避難者数は4037人となっていました（2013年2月15日時点、今回の調査では埼玉県内に6500人以上の避難者の方々がいる

という結果が生まれました。二重集計などの誤差の可能性を踏まえても、2千人以上の方々が国の集計からこぼれ落ちてしまっていることがわかります。

避難した方々の出身地は、北は青森県から南は千葉県まで広範囲に及んでいます。福島県については、避難者数が千人を超えている双葉町・南相馬市をはじめとして、浪江町・大熊町・富岡町など「警戒区域」「計画的避難区域」に指定された地域から多くの方々が避難されています。また、郡山市・福島市・いわき市などから「自主避難」されて

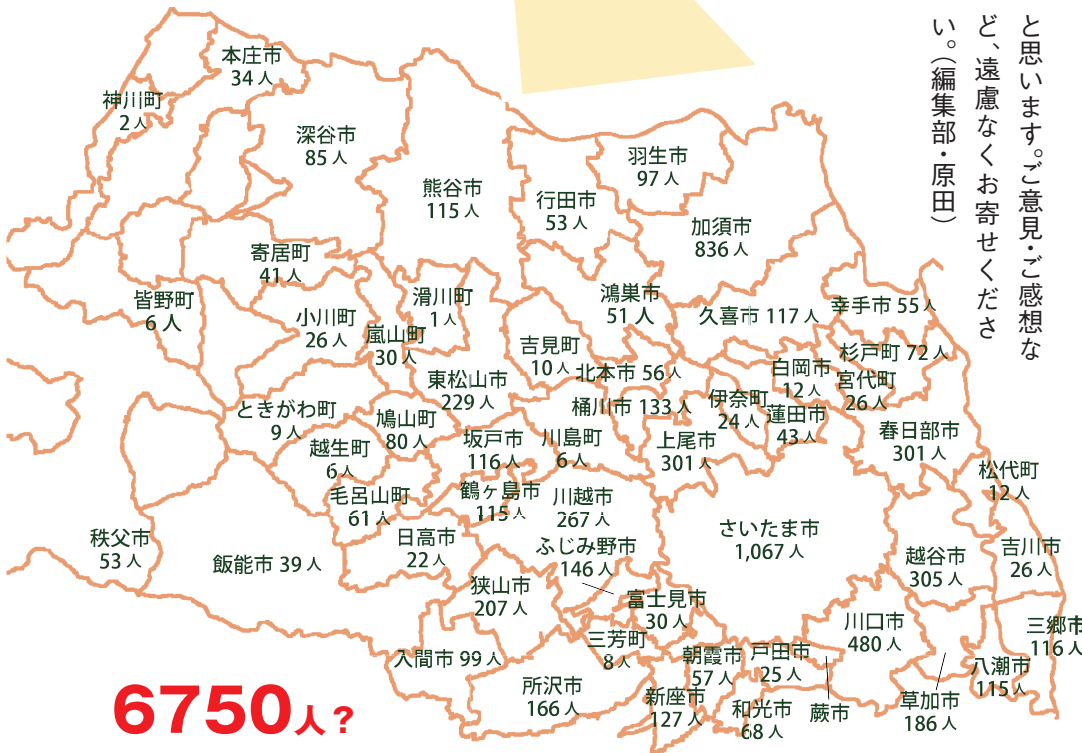
きた方々も大勢いらっしゃる。避難先としては、さいたま市・加須市・川口市が特に多くなっていますが、県内のほぼすべての自治体に避難者の方々がいらっしやることわかります。

埼玉県内では、各地で生活支援や交流会が実施されていますが、まだまだ地域によってバラつきがあります。加えて、同じ地域から避難した方々、同じ境遇にある方々が集まれる場を作っていくことも、必要になってくると思われれます（4〜5ページのアンケート報告もご参照ください）。

『福玉便り』では今後も、正確な人数把握を進めながら、生活支援や交流のあり方を皆さんと一緒に考えていきたい

『福玉便り』編集委員会（埼玉労働者福祉協議会、ハンズオン埼玉、震災支援ネットワーク埼玉）は、2月18日～3月5日の期間に、埼玉県内の避難者数調査を実施しました。2月7日時点で避難者が居住中としている55の自治体宛に、ファクスおよび電話にて「各自治体内の受け入れ避難者数」「受け入れた避難者の出身ごとの内訳（県別、および福島県については市町村別）」を尋ねたところ、全ての自治体から回答が得られました。鴻巣市は避難者数が非公開となっているため、左の図では、2012年5月29日時点で埼玉県が発表した人数を掲載しております。なお、避難者の出身地の内訳については、上述の鴻巣市に加えて8の自治体が非公開との回答でした。そのため、本ページに掲載している出身ごとの避難者数は、公開された避難者数の合算となり、実際の人数はもっと多いことが見込まれます。

（編集部・原田）



6750人?

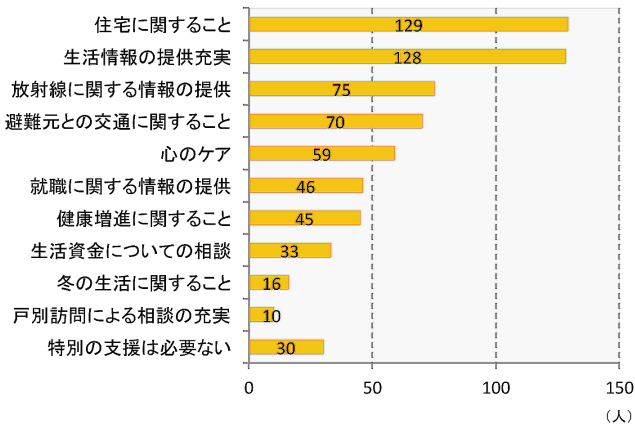
『福玉便り』読者アンケートから

昨年12月、『福玉便り』編集部に住所をご登録いただいている500世帯を対象に、アンケートを実施いたしました。いくつかの地域では避難者の方々同士でアンケートのコピーを配布していただき、最終的に231人の方からご回答をいただきました。ご協力いただいた皆様には、改めてお礼を申し上げます。ここでは、アンケートの集計結果と自由記述から見えてきた、避難者の方々の現状や今後について、お伝えいたします。(編集部・原田)

1. 生活支援について

まず、どのような生活支援を期待しているか尋ねたところ、図1のような回答がありました。このうち、特に回答が多かった住宅に関する期待として、自由記述で以下のような不安

図1. 期待する生活支援(複数回答)



の声が寄せられました。

★現在借り上げ住宅に住んでいますが、震災当時小学生だった長男も今は中学生になり、6畳2間のアパートで家族5人ではあまりにも狭く、勉強するにも下の子2人がテレビ

を見たりしていると集中する事ができなく、せめてもう一部屋あったら普通に布団をひく事も小さなテーブルを置いて勉強させる事もできるのにな、と思う日々です。(富岡町、三十代女性)

★今、県営住宅に住んでいます。が、あくまでも避難民への提供であり、延長ではなく普通の方と同じ家賃を払って住めないので聞いたところ、「から応募して当たればですね」と言われました。ムーンにずっといいとなれば、妻が仕事したり保育園へ預けること

も可能になるんじゃないかと思っています。やっと住んでいる皆さんと仲良くなれたのに、また二からやり直しといふとかなりきついなと感じています。(いわき市、二十代男性)

※ご回答いただいた方々の性別・年齢・避難元の地域の分布は、以下の通りです。

(性別)男性76人、女性145人、未記入10人
 (年齢)二九歳以下10人、三十代47人、四十代37人、五十代42人、六十代54人、七十歳以上29人、未記入12人
 (避難元の地域)岩手県6人、宮城県12人、福島県210人(浪江町39人、南相馬市38人、富岡町34人、大熊町22人、双葉町22人、いわき市10人、楳葉町8人、福島市7人、その他30人)、その他3人

抱えていることを、もっと気にかけて欲しい。(富岡町、四十代女性)

また、自主避難した方々を中心に、避難元との交通に関する要望が自由記述に多く寄せられました。

★月に1〜2回は車で福島に帰っているのですが、高速料金やガソリン代など大変です。せめて高速道路が無料になってくれれば毎週末には父親に会わせてあげることが可能になるの、と思います。(二本松市、四十代女性)

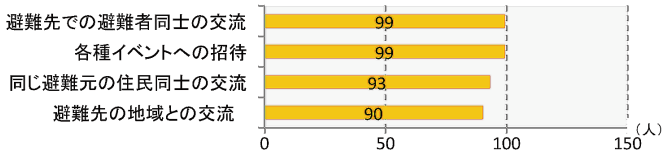
2. イベント・交流会について

期待するイベント・交流会について尋ねたところ、図2のような回答がありました。埼玉県内では各地で交流会が実施されており、自由記述で以下のような声も寄せられました。

★となりの狭山市では福島から避難している人達で集まる交流会やイベントがあるのを聞いて、人間市でもそういうのがあるといいなあと感じてました。(南相馬市、四十代女性)

★自分から自主避難生活であることは言えず、同じ立場の方と交流する機会がありません。地元に戻っても、その話題

図2. 期待するイベント・交流(複数回答)



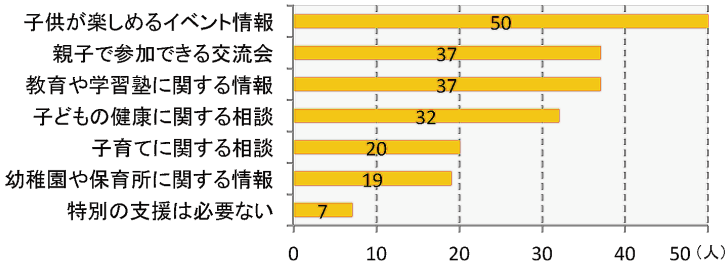
★秩父には祭りなどたくさんイベントがありますが、招待されることがない。招待されたら、いずれ地元に戻ったときに、秩父の良さを話せると思う。(いわき市、五十代男性)

★蓮田市近郊でのイベントがもう少し多いと、参加しやすいかと感じています。(浪江町、五十代男性)

また、避難先の地域で開かれる交流会だけでなく、同じ地域、同じ境遇の方と集まる機会を期待する声も寄せられました。

★市町村ごとの交流にしないと、話題が合わない。警戒区域等、市町村ごとに分割が違いため、話題の中心となる賠償で齟齬を生じる。(南相馬市、六十代男性)

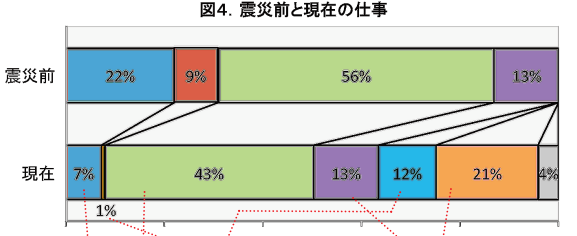
図3. 期待する子育て支援(複数回答)



等さまざまなか情報が必要。娘のトイレトレーニングの最中でおきた避難生活で母子共に精神的に苦しい。紙おむつの支援はとても助かります。今後継続をお願いします。(富岡町、四十代)

★避難先での病院、子育て支援
 今まで息子夫婦、孫達との同居だったので家の中が賑やかでしたが現在は大人だけの生活になり、活気もなくなり、たまに孫が泊まりに来るのを待っている。もうこの先一緒に暮らせない、この悲しさ辛さ、悔しさ、誰にぶついたらいいのか?(南相馬市、六十代女性)

4. 仕事について



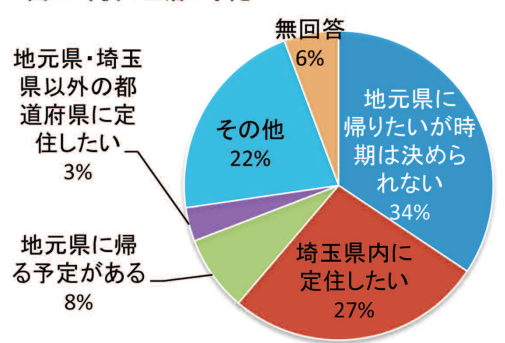
震災前と現在の仕事
 震災前と現在の仕事について、震災前から何らかのお仕事をしていただけた19名の回答を集計したところ、図4のようになります。自由記述では、以下のようなお声も出されました。

★被災者向けの雇用等も少しはあるのですが、男性で肉体労働の募集ばかり、女性は看護師の募集のみ。20社以上面接を受けましたが、年齢で難しいとの回答です。新卒者も求人難の時代ですので仕方ありませんが、各社、間口を広げていただけたいです。(大熊町、五十代女性)

5. 今後の生活の予定について
 今後の生活の予定について尋ねたところ、図5のような回答が得られました。なお、「その他」を選んだ方は、ほとんどが「迷っている」「決められない」「家族の意見がバラバラでまともまらない」と書かれています。

埼玉県や他県への定住を希望している方、地元県への帰還を希望しながらす

図5. 今後の生活の予定



★平成23年3月11日以前の双葉町に帰りたい。(原発から4キロ以内の住宅ではもうだめか? 第2の人生生活にこの地も考えている(双葉町、六十代女性)

★震災前から主人は埼玉で働いていたので、同居するようになり1年と8か月になります。津波での避難なので、以前住んでいた場所には戻れないですし、かと言ってずっとミミにいたいというわけでもなく、困ってないわけでもないけど、困っているわけでもない…。あいまいなままにきてしまっただけです。

6. これからの支援に向けて
 このように、今なお多くの避難者の方々が、住宅・子育て・仕事などに関して難しい状況に置かれています。そして、地元復興状況・家族構成・職種などを背景に、それぞれの抱えたニーズが個別化し、埋もれやすくなっていると言えます。これからの支援に向けて、

- ・国の政策が提供できること(高速道路料金の減免、借上げ住宅制度の改善など)
- ・埼玉県内の各自治体が提供できること(子育て支援や病院の情報提供など)
- ・埼玉県内の企業が提供できること(就労支援など)
- ・避難者の方々自身やボランティアが提供できること(交流会の開催など)

といった役割分担と連携を明確にするとともに、より一層の支援体制の構築が必要とされているのではないのでしょうか。

※アンケートの配布方法が均一ではないため、各設問の回答分布や比率は、埼玉県内の避難者の方々のご意見を必ずしも統計的に反映している訳ではありません。また、紙幅の都合上、自由記述を引用するにあたって文章の一部を圧縮しています。

「除染」しても水も電気もなく、「田中の居住」すらできない……でも……

3月10日(日)に榊葉町の
新妻さん(一歩会会長)宅を

「一歩会」の皆さんと訪問しました。常磐道広野インターチェンジを出て1kmほど行って左折し、人気の少ない国道6号線を走っていくと左前方に

写真1



写真2



ての家が倒壊したままになっていました。

新妻さんのお宅は今年1月18日と19日に「除染作業」が行われ、敷地内の雑草や雑木が刈り取られていました。(写真1)

しかし、「除染」された草木や土は、黒い袋に詰められたまま敷地内に積み上げられ、放射線発生源となつています。(写真2)

少なくとも榊葉町の新妻さんのお宅は「居住制限」という言葉以上に、「除染」効果が上がっていない気がしました。でも新妻さんは言います「ここ」で生活するためにも、家の周りに花を植えて、みんなが喜べるようにしたい」と……
埼玉県民に呼びかけて「花で新妻さん宅を囲み隊」を編成して、バスで榊葉に来たい、そう思いました。

(編集部・永田)

南相馬「枝の会」からの贈り物

月に一度、川越で『ここカフェ』という集まりを開いています。先日、南相馬市から避難されている方が、かわいらしいポプリと、手作りのカードを交流会に持ってきてくださいました。



「ポプリは、相馬野馬追(そうまのまお)をイメージして作られています。また、猫の小さなマスコットは南相馬のがんぱっぺニャンと名付けられていてひとつ

ひとつ違った表情で



そして、ポプリは、『ラベンダー』好きて聞いたので……と手作りで作ってきてくださいました。

手作りの贈り物。ほっこり、温かい気持ちを感じました。大切にしたいと思います。(ここカフェ@川越/編集部・伊藤)

自主避難者の方々も、高速道路が無料に。

下記は3.15 国土交通省発表の内容です。警戒区域等のみだった高速道路の利用料金の減免が中通りからの方も対象になりました。

原発事故による母子避難者等に対する高速道路の無料措置

1. 対象者

原発事故発生時に福島県浜通り・中通り(原発事故による警戒区域等※1を除く)及び宮城県丸森町に居住しており、当該地域の外に避難して二重生活を強いられている母子避難者等

※1 警戒区域、計画的避難区域、帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定されている地域並びに緊急時避難準備区域に指定されていた地域(実施期間中に警戒区域及び計画的避難区域の見直しが行われた場合においても、当面、対象となる避難者の範囲は変更しません。)及び特定避難勧奨地点の設定を受けた地点

2. 対象走行

避難元の最寄りインターチェンジと避難先の最寄りインターチェンジ間の走行

3. 申込方法等

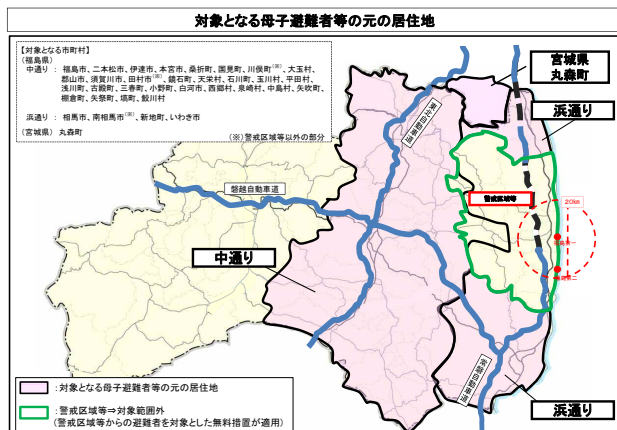
対象地域内の避難元市町村へ、住民票等の必要書類を提示し、無料措置の対象者であることの証明書の交付を申請します。証明書の交付を受けた後、避難元の最寄りインターチェンジと避難先の最寄りインターチェンジとの間の走行に対し無料措置を適用します。ただし、出口料金所で確認用書面(※2)を提示する必要があります。

※2 出口料金所で提示が必要な書面
入口料金所で受け取った通行券とあわせて、下記の書面の提示が必要となります。コピー不可)
①無料措置の対象であることを証明する書面
②本人を確認するための書

面(運転免許証、パスポート、健康保険証等の公的機関が発行するもの)

4. 実施期間

平成25年度予算成立を目途に開始(当面、平成26年3月末まで)



藤田博司さん

双葉町から避難、川崎市在住で加須に通う

震災前は、長く郵便局に勤務していた退職後、妻がはじめていた有機農業に取り組んでいました。牛も飼って、循環型農業を目指して研究会なども行なっていました。農薬をつかわないのでホテルもたくさんいたんですよ。お米を大手のデパートで直接販売したり、横浜の有名なうなぎ屋さんに定期的に出荷するなど、販路も拡大してきていたところでした。



現在は川崎の市営住宅にお世話になりながら、ハ王子で借りた畑に行ったり、加須(騎西)に通ったりしています。加須では、『元気農園』という畑をみんなが耕したり、『整膚クラブ』に参加したりもしています。みんなと、何か一緒にやることで、なんとか毎日過ごしています。

でも、夜、目が覚めて眠れないときはつらいです。これからどういふふうにしていったらいいのか、先のことを考えても見えてこないですから。除染をするという事は、だいじにしてきた土をはぎとるといふことですから。牛の背中をさすってだいじにしてきたんだけどね……早く、自分の居所を決められればいいのですが、今は根っこがない感じですよ。じっと耐えるしかありませんよね……。

いわき市より避難中のTさんとSさん

3・11が近づく、震災当初の様々な思いが鮮明に蘇ります。私たちにとって、震災は今もまだ終わっていません。

いわき市は、地震、津波の被害、そして原発事故の被害を受けました。さらに、様々な地域からの数万人規模の被災者や、原発の作業員、除染作業員を含める膨大な人数の復興作業員の受け入れ先になっている、複雑な地域です。私たちは、子どもへのリスクを可能な限り減らすために避難して

福地光春さん

宮城県東松島市から新座市に避難中

津波被害により新座市にある公務員宿舍で子どもと二人でお世話になっています。震災から2年の時が過ぎ、今でも震災の事が蘇ってしまいますが、何かをしなればという事で、仕事を見つけ、今は打ち込んでいます。

避難生活を始めてからしばらくは、都会の人とは話さずらいな、話かけると怒られるのではないかなどと気後れしてしまうこともありましたが、しかし、新座つながりカフェであたたかく迎えられる、自分の胸の



います。ほんの数キロの差で国の避難指示の出なかった土地に住んでいたため、何もかも自己責任とされています。

唯一の希望とも言える「原発事故子ども・被災者支援法」を、いわき市、福島県をはじめ、全国各地の人に知ってもらい、被災者にとって有意義なものにしてもらいたいです。震災・原発事故の風化が進む中、興味のない方にも関心を持ってもらえたらと思っています。



うちを明かすことができる方も出会うことができ、それが今の避難生活の支えとなっています。

故郷へ帰りたくても帰れない、そんな状況がまだしばらく続きそうです。同じ境遇にある人同士で支えあっていくために、新座つながりカフェを運営してきた皆さんの協力をいただきながら、交流会の運営に携わっていければ、さらには近隣の皆さんとも自治会活動などを通じて、交流を深められればと思っています。

村上秀雄さん

榊葉町からさいたま市へ避難中

榊葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話になっております。福島県の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰って生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰ったとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしているのか……先が見えない生活が続きそうです。



皆さんの声を編集部までお聞かせください

3年目を迎えて、様々な想いを抱えて、日々暮らしていらっしゃると思います。一人ひとり決断は違っても、互いに尊重し、交換していけたらいいと考えています。「こんなふうに暮らしています」「こんな気持で日々過ごしています」「こんなことをしたいと思っています」「○○について、皆さんはどうしていますか?」……など、どんなお声でも結構です。一行だけでも。小さなつぶやきでも。匿名でも。お聞かせください。お待ちしております。

FAX 048-833-8746

メール:fukutama@431279.comまで

月	火	水	木	金	土	日
1 4月 	2	3	4 ■杉戸町★つづじの里サロン (交流サロン、パソコンサロン、 こども塾) 毎週木曜13:30-15:30 杉戸住宅6-301 0480-31-0055(つづじの里サロ ン事務局) ■加須市簡単で使える 作品を作ります! 9:30~11:30 旧騎西高校生徒ホール 048-601-3111(With Youさいたま)	5 	6 ■上尾市 ひまわり会 10:00~12:00 シラコバト団地集会所 048-774-6323(団地自治 会事務所)080-3091-6215 (橋さん) ■加須市 かぞびば プレーパーク 10:00-15:00 騎西中央公園 080-6721-6858(たにこい)	7 ■幸手市 権現堂の桜の下に集まろう →1ページ参照 ■越谷市 一歩会総会 11:00~増林地区センター 090-4453-2034(安齋さん) ■加須市花見交流会 10:00~加須市花崎北公園(寄り添 いステーション騎西集會) 090-1650-2874(富沢さん) ■羽生市羽生つながりカフェ 11:00~15:00 お花見に出かけます! パープル羽生 和室 048-601-3111(WithYouさいたま)
8 	9	10	11 ■さいたま市 さいがいつながりカフェ 11:00~15:00 With Youさいたま4階 和室048-601-3111 ★	12	13 ■さいたま市 福玉・謡曲の会 10:30~11:30 With Youさいたま4階 セミナー室2 080- 5532-7380(薄井さん)	14 ■富士見市 お茶のみ交流会 10:00~12:30 ふじみ野交流センター 049-251-2711(富士見市安心安全課)
15 よれいホットライン 0120-279-338 365日24時間。無料です。 震災・避難関連の相談をはじめ、 生活の困り事、心の悩みなど、どん な内容でも対応してくれます。	16	17	18 ■川口市 ひまわりの会 10:00~ お外でサロン 川口グリーンセンター正門集會 080-4920-4931(ひまわりの会) ■鳩山町鳩の集い 10:00~12:00 JAXA鳩山宿舎108号室 049-296-1241(鳩山町健康 福祉課社会福祉担当) ★	19	20 ■所沢市 交流会:青空あおぞら 11:00~14:00 お花見 所沢航空記念公園/ コープラザ所沢 090-3960-8089(岡田 さん)、090-8424-9797 (渡邊さん) ■加須市 かぞびば プレーパーク 10:00-15:00騎西中央公園 080-6721-6858(たにこい)	21 ■ふじみ野市 おあがんなんしょ ビデオで振り返る「おあがんなんしょ」 13:00~16:00ふじみ野市フットピア 049-261-0681(市民活動支援センター) ■加須市 人形作り交流会 10:00~ 寄り添いステーション騎西 090-1650-2874(富沢さん) ■新座市新座つながりカフェ 13:30~16:00 栄公民館2階 090-4968-5685(下瀬さん)
22 ■川越市 ここカフェ@川越 10:00~12:30 川越市南公民館 090-4226-9259(伊 藤さん) ※参加される方は事前 にご連絡ください	23	24	25 ■さいたま市 さいがいつながりカフェ 11:00~15:00 With Youさいたま4階和室 048-601-3111 ■東松山市 さずなの会 10:00~12:00 サン・コーポラ ス集会所 090-6259-4952(佐藤さん) ★	26 ■春日部市 春日部つな がりカフェ 13:30~16:00 コープラザ 春日部3階 048-829-7400 (SSN)	27 ■さいたま市 埼玉中央メーデー ア)一歩会による浪江焼き そば イ)双葉町整膚クラ ブ実演 ウ)森さんの茶ま んじゅうの販売 など	28 インターネットでも最新情報をご案内しています。 http://431279.com/ 震災支援ネットワーク埼玉(SSN)
29	30					

ありがとう ございます!

本誌の印刷は、『富士ゼ
ロックス埼玉 端数倶楽
部』(社員ボランティア)の
皆様に全面的にご協力い
ただいております。



こう見えても58歳・・・孫3人
をもつおじいちゃんです。定
年退職まであと2年、いろ
いろガタがきた身体に鞭打
って、皆さんとお付き合ひさせ
て、皆さんとお付き合ひさせて
戴いています。杉戸の佐藤さんから
は「早く退職して自由なことをやろう!」と
責められていますが、ちょっと不安です。
「福」も「玉」も「福島」も「福玉便り」も
大好きです。今年、「相馬野馬追い」を親
に行きたいと考えています。誰か一緒に行
く人はいませんか???



「福玉便り」配達人の永田です。実は中央
労働金庫の職員です。一応金融マンなので
すが、縁あって(一社)埼玉労福協に出向し
ています。
福玉編集部での役割は「旗振り係」、他の
編集部員が徹夜で作業しているのを横目
に、「この写真入らない?」などと「KYな
お願い」をして作業を邪魔したりしていま
す。



こんにちは、編集部です。
福玉便りって、どんな人がつくっている
のですか?という声にお応えして、編集
部の横顔をご紹介します。

編集部の腕章ができました。この腕章をつけ
たものが、皆さんのまちにおじやまして、お
話しを伺わせていただきます。どうぞご協
力のほど、よろしく願っています。

福玉便り お送りします。

ご希望の方には、本紙を郵
送でお送りします。

提供しています。 支援物資のご案内

「トマトピューレ」・「レジャーグッ
ズ」を提供いたします。必要な
方は(一社)埼玉労福協まで

本誌に関
するご連
絡はこ
ちらまで

『福玉便り』編集委員会
連絡先:(一社)埼玉県労働者福祉協
会
電話048-833-8731